

削減事業者めざす

大館北秋田森林組合

国の温室効果ガス吸収プロジェクト

上小阿仁でスギ林間伐

大館北秋田森林組合(大越勝男組合長)は、適切な森林整備を通じて二酸化炭素の削減を図る、国の温室効果ガス吸収プロジェクトに取り組み、環境省に事業申請しており、早ければ4月にも事業登録される見通しになっている。

地球温暖化の要因とされる二酸化炭素の排出削減を推進するため国が実施するオフセットクレジット(OFS-VER)制度に基づく事業。森林の二酸化炭素吸収量を削減量として企業などに売却できる制度で、国が認証制度を設けて実施している。

木質バイオマス燃料を活用する事業所や、森林の間伐や植樹を行う林業は排出削減事業者として承認される可能性があり、北鹿地域

でも実施が検討されていた。大館北秋田森林組合が申請したのは「北秋田地域振興事業における上小阿仁村J-VERプロジェクト」。制度推進を支援する東京の会社と共同で実施する。上小阿仁村仏社と五反沢の秋田スギ人工林約28㍍で実施する間伐が対象。間伐を5年周期で行い森林環境の保全を図るとともに、50年間で皆伐し造林することで資源造成を図る。地域住民を対象にし

た間伐ツアーなどを行って、森林環境の保全意識を高めることもねらいとしている。プロジェクト期間は19年10月から25年3月まで。クレジット対象になるのは20年4月から25年3月。二酸化炭素の排出削減量は約900トを見込んでい

る。申請は認証センターのホームページに掲載されている。パブリックコメントを30日まで募集し、その後登録される見通しになっている。県などによると登録されれば県内第一号の事業になるという。

